

平成19年度

帯広市
文化賞

帯広市教育委員会

帯 広 市 文 化 賞 受 賞 者



ふか ざわ すみこ
深 澤 須美子

(79歳)

《受賞理由》

氏は、若くから生田流正派の箏・三絃教授として活躍され、昭和27年、帯広に開軒以来、その卓越した技芸は斯界より高く評価されております。また、これまでに数多くの師弟を育成されており、その門下生は、十勝管内はもとより、全道各地で活躍されております。

また、昭和31年、帯広邦楽舞踊協会（現：帯広邦楽邦舞協会）が発足した際には副会長、昭和50年には、帯広三曲協会を設立し会長を務められ、日本の伝統音楽の普及発展のため、幅広く演奏活動や後継者育成に精力的に取り組まれております。

近年では、若手の育成に力を注ぐとともに、十勝管内の幼稚園や小・中・高校などに直接訪問して体験学習を実施するなど、日本の伝統芸能のすそ野を広げる努力を続けられております。

このような氏の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

- | | |
|-------|---|
| 昭和20年 | 小林雅陽師に入門 |
| 昭和24年 | 芸名 雅楽須美を名乗る |
| 昭和27年 | 帯広で開軒（教室を開設）
（以後、数多くの演奏会を行う） |
| 昭和31年 | 帯広邦楽舞踊協会（現：帯広邦楽邦舞協会）の創立メンバーとして参画
（創立時 副会長、現在相談役） |
| 昭和40年 | 大師範に昇格 |
| 昭和50年 | 帯広三曲協会を設立、会長を務める（現在相談役） |
| 平成4年 | 十勝文化団体協議会文化賞受賞 |
| 平成14年 | 札幌正派合奏団20周年記念演奏会出演
（札幌コンサートホールKitara） |

帯広市文化賞受賞者



まつもとみちこ
松本道子

(74歳)

《受賞理由》

氏は、若くから現代舞踊に深く関心を持ち、昭和33年、帯広に教室を開設以来、肉体と精神のおもしろさやダンスの様々なあり方を世に問いかけ、毎年のように道内外において公演を行うほか、後進の育成にも努められ、地域の舞踊芸術の発展に大きく貢献されたことにより、昭和62年に帯広市文化奨励賞を受賞されております。

その舞台では、人間の持つさまざまな感情や心の動きを独創的に表現し、ステージのみならず、公園や屋外などさまざまな場所で、音楽や音響・照明などの効果を活かして創られる舞台は、人々に感動を与えてくれます。

また、長年にわたり帯広市民劇場運営委員会副委員長や社団法人現代舞踊協会北海道支部副支部長、特定非営利活動法人十勝文化会議理事を務められるなど、道内を中心に文化芸術団体の要職を歴任、現在においても自ら精力的に活動を続けられております。

このような氏の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

- | | |
|-------|---|
| 昭和27年 | 平岡斗南夫、志賀美也子、高田せい子に師事 |
| 昭和33年 | 松本道子創作舞踊研究所(現：松本道子モダンダンス)を開設
(以後、ジョイント・ソロを問わず、数多くの公演を行う) |
| 昭和38年 | 帯広市民劇場運営委員会の創立メンバーとして参画
(昭和63年から平成5年まで副委員長、現在顧問) |
| 昭和59年 | 社団法人現代舞踊協会北海道支部副支部長就任
(以後、通算15年以上にわたって副支部長、現在理事) |
| 昭和60年 | 帯広市民劇場賞受賞 |
| 平成16年 | 特定非営利活動法人十勝文化会議文化賞受賞 |
| 平成17年 | 田園都市のコンテンポラリーアート「雪と風の器」
『地球をDanceする』(帯広) |
| 平成18年 | 「一瞬と永遠」(スペイン バルセロナ市) |
| 平成19年 | 「束間(つかぬのあわいに)」(帯広・札幌) |